

「静岡県史」資料編（産業・経済）の概要

本書には、1960年代から2009年までの県内の商工業、農林業、水産業に関する資料609点を収載しました。この期間は、1950年代後半からの**高度経済成長**に始まり、70年代の2度の**石油危機**と鈍化する経済成長、80年代の**円高の進行**と**バブル経済**、そして90年代の**バブル経済崩壊**とその後の県内経済の低迷という、まさに激動の時代でした。この時代の本県の産業・経済の歩みを、多様な資料から明らかにしたのが本書です。本県の産業の発展経過を幅広くみていくことで、県内に様々な産業が存在していたため、1960年代から今日までの持続的な成長が可能であったことが明らかになります。

例えば、高度経済成長期に石油化学工業の誘致を断念しても、これに代わる在来産業や機械工業が発展したこと、産業の空洞化が進展する中でも、県内には消費財に関わる産業が立地していたことなどがあげられます。また、自然環境に恵まれ、農林業、水産業が様々な問題に直面しながらも成長し続けたこともあります。

また、付録として、1989年以降の本県の95統計データをエクセルでCDに収載しました。

「温故知新」。過去の出来事を詳らかにすることは、**富国徳の「美しい“ふじのくに”**」を目指す本県の今後の進むべき道を明らかにすることでもあります。是非、本書を手にとっていただき、今後の本県の成長を考えてみませんか。

<目次構成>

第I編 経済大国化する日本と県経済—高度経済成長第II期（1965—1972）

- 第1章 商工業の大型化志向
- 第2章 農林業と開放経済体制
- 第3章 水産業

第II編 石油危機と省力化の中の県経済—1974・75年不況と低成長期—（1973—1981）

- 第1章 国内市場志向と商工業
- 第2章 農林業労働の高齢化の進行と技術
- 第3章 水産業

第III編 バブル化の時代と県経済—1980年代バブル化—（1982—1991）

- 第1章 テクノポリスと商工業
- 第2章 農林業とハイテク化始動
- 第3章 水産業

第IV編 低迷する経済と県経済—1990年代の経済停滞期から21世紀初頭の混迷と成長—（1992～）

- 第1章 ハイテク化、サービス化と産業地帯のクラスター化、国際化の県商工業
- 第2章 農林業の労働力縮小と経営大規模化
- 第3章 水産業